

# 定例教育委員会会議録

令和5年5月25日

境港市定例教育委員会（令和5年5月25日委員会会議録）

招集年月日 令和5年5月25日 15時30分

---

招集場所 市役所第一会議室

---

開 会 15時20分 教育長宣言

---

教育委員会 教育長 山本 淳一

---

委 員（職務代理者） 中田 耕治

---

委 員 十河 淳 渡邊 不二子 大部 由美

---

教育長から説明のため出席を求められた者

---

教育委員会事務局長 松 原 隆

---

教育総務課長 角 純 也

---

教育総務課長補佐兼指導係長 柳 樂 力 人

---

生涯学習課長 松 本 昭 児

---

教育総務課主幹 築 谷 健 作

---

管理係長 今 井 洋 介

---

傍聴者数 なし

---

会議書記 管理係長 今 井 洋 介

---

提出議案 議案第22号 境港市スポーツ推進審議会委員の委嘱について

---

議案第23号 境港市青少年育成センター運営協議委員の委嘱について

---

協議事項 教育委員会の点検・評価について

---

報告事項 5月の行事報告、6月の行事予定

---

境港市民図書館の利用状況について

---

### 【1. 開会】

山本教育長

若干早いですが、皆様お揃いのようなのでただいまから5月の定例教育委員会を始めます。

### 【2. 前回議事録承認】

### 【3. 議事】

山本教育長

早速ですが議案第22号境港市スポーツ推進審議会委員の委嘱について生涯学習課長より説明をお願いします。

松本課長

議案第22号境港市スポーツ推進審議会委員の委嘱についてです。委員名簿の網掛けの5名の方（拝藤さん、中村さん、足立さん、酒井さん、下西さん）、地域のスポーツ団体、セーリング関連、福祉関連、学校教育関連から新たに委嘱をさせていただきたいと考えています。任期は令和5年5月1日からの2年間となっております。スポーツ推進審議会につきましては、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査、審議するための会となっております。本市におきましても、スポーツ推進計画の策定において、スポーツ推進審議会にて審議を行っていただいております。スポーツ推進計画は令和3年3月に令和12年までの10年間の計画が策定済みで、現在、策定から2年間経ちましたので、今年度の審議会において進捗状況を確認することとしております。

山本教育長

ただいまの説明についてご質問等ありますでしょうか（質問等なし）。それではご承認いただけますでしょうか（異議なし）。議案第22号については承認といたします。続きまして議案第23号境港市青少年育成センター運営協議委員の委嘱について生涯学習課長より説明をお願いします。

松本課長

議案第23号境港市青少年育成センター運営協議委員の委嘱についてです。委員名簿4番から10番（早川さん、藤原さん、北農さん、池原さん、足立さん、上坂さん、岡空さん）につきまして、辞職等のこれまでの委員の変更に伴い新たな方を委嘱させていただきたいです。

山本教育長

ただいまの説明についてご質問等ありますでしょうか（質問

等なし)。それではご承認いただけますでしょうか（異議なし）。議案第23号については承認といたします。議決事項としては以上となります。引き続き協議事項に入ります。教育委員会の点検・評価について、事前にお配りした資料に目を通していただけていると思いますので、ご意見等ありましたら、ご質問いただければと思います。

今井係長

事務局から簡単にご説明させていただきます。教育委員会の点検・評価につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により毎年実施することが義務付けられており、その結果を議会へ提出するとともに、公表することになっております。今回令和4年度の事業について点検・評価を行っております。なお、指導助言者につきましては、昨年度と同じ元校長の森慶介さんと元公民館長の古徳寧さんをお願いしております。それではよろしく願いいたします。

中田委員

児童クラブ運営事業について。コロナ感染の拡大中はどうしても児童クラブの必要性が高まっていたが、自粛要請が明けてからの状況をどのように考えていかれる予定でしょうか。CSばたけの子どもたちの居場所づくりがどんどん進みかけてきているところとの兼ね合い等、今後の方向性が表に出てきたほうが良いのではと思いますし、児童クラブの在り方は案外そういったものなのかもしれない。そういったところで質問させていただきました。

渡邊委員

そこに関連して、現在児童クラブの待機児童はどのくらいおられますか。もしかしたら希望はしていなくても、そういう声は届いていたりするのでしょうか。わかる範囲で教えてもらえたらと思います。

角課長

コロナも5類になりまして、学校と同様に児童クラブでもマスクの着用を強制することはもちろんありませんし、食事をするときもみんなワイワイしながらやっている状況です。CSとのからみという、余子の活動とか外江の活動とかいろいろあると思うのですが、それらの活動とも協力しながら地域の方々に受け入れられるようになればと考えてはいるのですが、具体的などころまではまだ考えていない状況です。待機児童につき

ましては、現時点ではございません。去年は4人待機児童がいましたが、今年につきましては、基準人数以下で進めております。

山本教育長

今後の方向性はまだはっきりと打ち出してはいないのですが、民間でフリースクールを境港市でもやりたいというようなお話もありますし、コロナ終息後も不登校の児童生徒数がずっと増えておりまして、どう戻していくか、以前のように戻せるかという予想も現状全く立っていない状況です。あらゆる教育活動を通じて学びの機会は子どもたちが選択できるような形で提供する時代になってきていると思いますので、学校一本とか、児童クラブがすべてという時代ではなくなりつつあるのだろうなと思っております。待機児童については夏休みにはどうしても待機児童が出るという状況は去年もありました。定員を超えて、住んでいるところとは異なる児童クラブに通っていただくこともしていますが、方針としては、学校の中でいざという時に教員のヘルプも得ながら、また子どもたちが移動時に危険な状態になったり迷子になったりいなくなったりというようなことが起きないようにと考えておりますので、とりあえずは今のところギリギリのところできているのかなというのが現状です。

中田委員

山本教育長から民間のフリースクールの話が出ましたが、実際に何か所か子どもたちの集まれる場所も増えてきていたりするのだと思いますが、預かる以上の安全性についても考える必要があると思います。従来の児童クラブのような公的な場であれば、安全管理についてもしっかりされていると思うのですが、民間で行う場合の安全基準も、一緒に考えていながら安全の確保ができればと思います。そして、児童クラブでなくても、子どもたちが行きたいところへ行けるよう選択肢ができて、どこでも安心して行けるような、そんな場所ができればいいと思います。

角課長

実は、民間の児童クラブを開きたいという相談が今年度に入って2件ありました。高学年の児童は親が家にいない場合でも、低学年の児童と一緒にいるのは面白くない等の理由で児童クラブに行かない児童は多いのですが、そういった児童を対象に、少し勉強も教えながらやっていきたいという意見もありました。

勉強を教えるというのは本来の児童クラブの趣旨とは若干違ってくるので、補助対象におそらくならないのではというのもあり、そういったところでおそらく現在検討されていると思うのですが、需要があるかどうかはわかりませんが、今後はそういった民間の児童クラブもできていくのではという話があります。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

渡邊委員

学力向上事業・よりよい学級づくり事業について。CRT、とっとり学力学習状況調査等いろいろと取り組んでいただいて、特色のある取り組みとして選ばれていたりもして、昨年も今年もすごく頑張ってくださっているなど感じています。テストの結果だけでなく伸び率等にも着目するところがすごく良いと思います。やはり、ひとりひとりの伸びの状態や学力の定着等を日々の授業の中で見極めていくことが、取り組みにおける基本となる場所だと思いますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。また、QU検査の年2回というのもすごく変化がわかって良いので、続けてほしいと思いました。ありがとうございます。

柳楽補佐

とっとり学力学習状況調査は、子どもたちの一人一人の伸びを経年で追って見ていくことができるテストになっておりますし、全国学力学習状況調査とは少し問題の質が違ってまして、過去の全国学力学習状況調査にあったA問題という基礎問題に少し思考力を問う問題が混ざっているような問題で、子どもたちの基礎的な学力がわかるようになっていきます。もうひとつ良いと思う点が、子どもたちが集団としてもどれくらい伸びているか、クラス替えがあっても元のクラスに戻してチェックができたりする点で、教員にとっては厳しい評価になるのですが、もう1度振り返ることができることが、教員にとっても自分の指導を振り返ったり、改善につなげたりする機会になると考えています。また、QU検査に関しても、もちろん年2回の実施で成果が見えるということもあるのですが、現在私たちはとにかく学校に出向いて指導助言することを大事にしています。学級が荒れてしまっただけからでは、そこへの支援やてこ入れにも相当時間も労力もかかるので、普段からしっかり学校を見て、学

校とやりとりをしながら、子どもたちの様子等、お互いに気づいたことを言い合える風通しの良いつながりをつくることを目指しています。私は現在全学級をまわったところで、2周目に入ろうかと考えています。以上です。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

英語教育推進事業について。昨年も確かお話ししたと思うのですが、評価が「概ね順調」となっておりまして、境港市は素晴らしい事業をされているのだから、「順調」と言ってしまう方が良いのになど。先日報道でありましたけれど、5月19日付の読売新聞で、鳥取県全体の結果34.6%に対して、境港市は55%以上という評価なので、これは「概ね順調」ではなくて素晴らしく順調だと思うのです。これだけALTの方も揃えていただいて、英語環境がすごく整っているのが実際そういった数字にも表れていることなので、「順調」とした方が良くないかなと思います。

渡邊委員

もしかしたら、評価を「順調」ではなく「概ね順調」とした経緯があるのでしょうか。わかる範囲で教えていただけたらと思います。

築谷主幹

過大な評価を市のほうにいただきまして、委員の皆様には厚く御礼申し上げます。英語科もALTの皆さんが工夫をしながら中学校、小学校と頑張っています。ただ、教員も本当に数が足りなくなってきたのと、加えて若手の教員も非常に増えてまいりました。先程、柳楽補佐も言われましたが、授業をそれぞれまわっていく中で、特に国語、英語の授業に苦戦を強いられている先生方が多く見受けられまして、どのように言葉を使って育んでいくかというところで、非常に課題感がございます。そういった意味で、子どもたちの結果はこのような形ではございますけれども、言葉を学ぶということはどういうことなのかとか、言葉を育む上での指導技術をこれから身に付けていくことが急務に感じておりまして、授業に我々が入り込んで特別に授業させてもらったり、指導主事が各学級で授業したりというような取り組みも今年度行ってみて、若手の先生方に話すのではなくて見てもらうというのもひとつやっつけていこうかというこ

とを指導係では話をしております。ぜひその際は皆様にも来て  
いただいてご意見いただけるとありがたいなと思っております。

渡邊委員

素晴らしい取り組みだと思います。また、小学校の英語専科  
の先生の活用の仕方というのがもしわかれば、具体的に教えて  
もらえたらありがたいです。

柳楽補佐

県からの英語専科教員は、たくさん希望してはいますが実際  
のところ、現在境港市にまわっていただいているのは1名です。  
渡小学校と中浜小学校を兼務しておりまして、その2校では英  
語専科教員がすべての外国語活動や外国語の授業を受け持って  
おり、大体12時間ずつ授業を行っています。その他の学校に  
も、英語の教員免許を所持している教員をバランスよく配置し  
ておりまして、なるべく多くの外国語活動や外国語の授業をで  
きるように授業の入れ替えをする等、それぞれの学校で工夫し  
ながら、専門的な教諭が外国語活動や外国語の授業を中心に担  
っている状況です。

山本教育長

今年考えているのは、「ALTキャラバン」として、英語の  
ALT6人が各小学校を訪問して、まだ外国語活動が無い小学  
校1、2年生対象に授業をしてもらう活動です。ALTの方々  
はそれこそイギリスやアメリカやカナダやオーストラリアやい  
ろんな国の方がいますから、地球儀で出身国を指して「ここか  
ら来たんだよ」と紹介してもらうだけでも驚きがあって、楽し  
いのではないかなと思います。またもう一つ、言語を軸とした  
学力向上を、1年単位ではなく経年で仕掛けを作っていこうと  
しています。まずは、先程築谷主幹からも話がありましたが、  
英語教育や国語教育に少し難を示すような先生方もいるという  
ことで、「ことばの力を育む研修会」として、8月9日にみな  
とテラスの中会議室で教員向けに講演をしていただく予定です。  
講師にはキタハラ先生とカイ先生という国語と英語の先生をお  
招きします。もしご都合がつけば、教育委員の皆さんにもぜひ  
来ていただいて、教員の刺激だけじゃなくて、全市的にやって  
いこうと。来年には二人の先生方が直接現場に入って指導して  
くださるところまで話が進んでおりまして、継続的な取り組み  
として、言語を中心とした学力向上を目指していきたいと考えて  
います。例えば、「無理、できない」という短い言葉のみで、



伝えるのをあきらめてしまうのではなく、何が無理なのか、どういう条件が揃っていないから、こういう準備ができていないから今はできないのだと言語で説明できるようにと。言語を活用できるような力がつけば学力は自動でついていくのではないかという仮説のもとに今動こうと思っています。取り組みの成果はすぐには出ませんが、取り組みの様子を見ていただいて、またいろいろとご意見を頂ければ嬉しいなと思っていますところでは。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

ICT教育推進事業について。「GIGAスクール構想の実現」に向けて、市内一斉に「児童生徒一人一台の学習用端末」及び「高速大容量の通信ネットワーク環境」の整備がされたとのことですが、報告書にも「今後のICT機器の更新及び修繕に必要な費用（財源）の確保対策が必要」とありますが、ICT機器の更新をどのような計画で行っていくのか決まっていますでしょうか。やはりICT機器はどんどん新しくなって性能が良いものが必要になってきますし、例えば1年生の機器だけ更新する、年度ごとに一つの学年の分を更新する、壊れた分から更新していく等、そういった方向性みたいなものがあれば教えていただきたいです。

柳楽補佐

予算の確保については、これから財政と協議しながら決めていくこととなります。子どもたちのタブレットに関しては、まだ更新について直近の課題にはなっていないのですが、今少し厳しいのが学校で使用している校務用のパソコンです。今日も中学校をまわっていたら、画面がだんだん黄色くなってきたと報告があり、いろいろな症状が出だしています。ちょうど業者の方もいらっしゃったのでいろいろ話をしたのですが、今はパソコンを5年持たせようと思ったら相当厳しいそうです。子どもたちのタブレットもまだ新しいのですが少しずつトラブルは出ています。一応代替機は確保していて、故障しても、タブレット自体にはデータが入っていないので、代替機でアカウントを入力してログインすれば、サーバからデータが下りてきてスムーズに使用できます。ただし、故障する頻度は少しずつ増えてきますので、そのための予算も財政と協議しながら確保して

いくところでは。

渡邊委員

今話題の c h a t G P T の使用や、その他の機器の使用にあたっての情報リテラシーに関して、おそらくは取り組んではいると思うのですが、どこかの機関と連携しているのか等、どのようになっているのでしょうか。

柳楽補佐

I C T 機器や情報をどのように扱うかといったことは、導入時に合わせてケイズさん等の業者の方と一緒に連携しながら、情報リテラシーも含めて推進計画をまとめています。モラルについてや、個人情報の扱い等、学校の中で機器や情報をどのように守っていくかの取り決めはあります。c h a t G P T についてはまだこれからですが、なかなか大きな問題ではあります。A I も、現在はまだ海外製のものが中心に動いているのですが、これからは日本もスーパーコンピュータを使いながら、日本語に特化したものの開発も急務になっているので、日本語向けの A I も出てくるでしょう。もう少し上の、例えば大学等になると提出されたレポートがその子の考えから書かれたものなのか、A I が出力したものなのか等の問題も出てきます。ただ、それらを全く触らせない方がいいのかというと、バランスも必要なのではということもあります。今日もたまたま移動中のラジオで流れていた話なのですが、兄弟の下の子の英語の辞書を購入するかどうか決めるときに、上の子の辞書があるからそれを使用するからいらぬという話になって、親はそれでは上の子が辞書がなくて困るのではと思い聞いたら、上の子はタブレットですぐ調べられるから大丈夫と答えたというのです。一応、教育課程の中には辞書の使い方も含まれているのですが、タブレットが一つの文具になっている中で、そのあたりもだんだん変わってきているのかなと思っています。

渡邊委員

現在いろいろなものがデジタルに変わってきているでしょうし、すごく変化が速くて計画がなかなか追いつかない部分があるのではと思って、現場の大変さを感じています。

柳楽補佐

現在、学習者用のデジタル教科書は文部科学省が全員に配っています。実は、今回の全国学力学習状況調査では英語で話すことは機器を使用して実施していたのですが、他県ではアクセ

ス集中のために負荷がかかって途中でつながらなくなる時間があつて試験が止まるということがありました。現在、鳥取県が予算をつけて、負荷がかかったときに本当に大丈夫なのか調査検証することになっています。そこで、境港市も簡単なフォームを使ったクイズに4年生以上の子どもが解答するものを、市内一斉に検証できるように、6月下旬または7月上旬で調整をしているところです。それでうまくいけば、テストのC B T化にも耐えうるかなというところです。

中田委員

学習に関しては、プログラム等も充実してきているところだと思うのですが、その他にもいろいろな使い方がありますよね。児童生徒たちが普段、学習以外でも、おそらくものすごくいろいろなことをやっている状況だと思いますし、それを全部把握できるのかというのを考えます。なぜそう思うのかというと、学校に行ったときに、裏の使い方を子どもが自慢げに教えてくれるんですよね。子どもたちの順応性とかそういったものを探してくる力はものすごく速いし、でもそれも結局使い方の一つなのですが、そういったことを我々大人が少し考えても対応できないだろうなど。子どもたちがどのような使い方をしているかという情報をどうやって引き出すのかを考える必要があると思います。例えば、学校以外のよく学校にいかれる方々が調査みたいな感じで聞き出してみるというのももしかしたら必要なかもしれない、そんな風にちょっと思ったところです。でもなかなかこういうことって表に出てこないのだろうな、今こういった場で話をしている、表には絶対出てこないのだろうなと思います。でもそれも含めて扱うということになってくるし、その上のリテラシーだということになってくると思います。それも踏まえたうえで今後考えていかないといけないなという風に思います。

山本教育長

ついていけないのが現実だと思います。すごい時代になって、何か勉強する場面で、また、それこそ柳楽補佐が言ったように論文を書くような場面で、いろんな論文を持ってきたり、それを自分の中で高めて、新たな発見やさらなる流れの良さを見つけていったりするというような、思考が頭の中を何回も往復するような経験が、若いうちにとられていく可能性があるのでしょうか。おそらくそれを文科省が一番危惧していますから。

タブレット等はひとつの便利ツールとして使いながら、学校生活において、対面であることや先生から影響を受けたり友だちから刺激を受けたりするような経験を活かすことで、自分たちが試行錯誤することや討論する、建設的な批判や意見を言い合うことの価値を上げていかないと、易きに流れる可能性はたくさんありますね。なぜなら、子どもたちはタブレット等で便利にアクセスして、それを私たちに教えてくれますから。子どもたちに使い方を教えてもらってこちらがお礼を言うような、誰が先生なのかわからないような状況もありました。なので、子どもたちに習いながらではあるけれど、使い方のリテラシーを発揮するのは、やはり教員がイニシアティブをとらないといけません。でも5年たったらまた全然違うことを言っているかもしれません。スパンがものすごく短いし、あんな機械使っていたなとなって、いまよりもっと小さな機械を使って、学校来たら自分の一つ持って、あるいは持ち帰ってもいいよという風になっているかもしれないし、全くわかりません。

中田委員

ICT教育については、今まではどうしても上から教えるという一方通行の話でしたが、結構詳しいほうだと自分では思っているけど、子どもたちには絶対に敵わないなっているのがあります。なので、逆に子どもたちが先生になったほうがいいのかなと。自分はこういう使い方しているよというのを逆に教えてもらうような、子どもたちが先生になるというようなことをやったらもしかしたら面白いかもしれません。子どもたちも人に教えること自体で勉強になるし、言葉を育むというような、人にどうしたら話し言葉が伝わるのか考えるということも含めてできるような気がします。学校の中で無理だったら地域の中でやったらいいだろうし、ふとそんなことを思ったりします。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

十河委員

二十歳のつどい記念事業について。毎年貴重な場に参加させていただいてありがたいことだと思っています。現在、二十歳の子たちが企画する実行委員会方式をとられていますが、前年のフィードバックが次の世代に伝わる仕組みはありますでしょうか。前年の反省点や改善点、ここ数年は夢みなとターミナルでされたり、みなとテラスでされたり会場もいろいろ違ったり

とかあると思いますが、申し送りや意見が次の世代の方たちに伝わっているのでしょうか。

松本課長

令和4年度が2回目の実行委員会方式になりまして、初年度は本当に手探りでまずやってみる、2回目で各中学校均等に委員になってもらって、という中で、正直そこまでしっかりとした前任者からの引継ぎや申し送りという仕組み化までは、まだまだこれからかなというのが現状となっています。今年度もやっていく中でということにはなるとは思いますけど。あとはこれまで2年間につきましても、役割的にもかなり限定的なものなので、全体を実行委員たちが全部担う中でいろいろな課題があってそれをしっかり次に引き継がないとみたいなところまでは正直まだいっていないので、これから役割も大きくなっていったときに、それこそ全部基本任せますよとなったときには、今みたいな仕組み化の話も自然と出てくるのかなと思ったりもします。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。

渡邊委員

市民交流センター管理運営事業について。みなとテラスのリハーサル室兼小会議室の稼働率が94%で、ほぼ使われているのですが、だれがどのように使われているのでしょうか。

松本課長

料金を安く設定したのが上手くいったという風に自分たちでは思っていますが、とにかくいろいろな方が、という表現になってしまいます。学生さんも大人の方もいて、本当にいろいろな方に使っていただいているということで、ほぼ100%となっています。なかなか予約をとるのも難しい状況になっていますが、使っていただいているという点では良かったかなと思っています。

渡邊委員

新しいから余計にみんなが使いたいと思うのでしょうかけれども。

中田委員

新しい会館が使えるんだという感覚を覚えといてもらうと、その後いつになっても使いやすくなると思います。あとはホールの稼働率がもっと上がってくれるといろいろな催しがされて

刺激になると思います。ホールの使い方として椅子を収納して（平土間）の使い方は結構あるのでしょうか。

松本課長 平土間で催事等されるケースもあるのですが、どちらかというとも基本的には座席ありの使い方が多いです。

中田委員 平土間にできることの認知度はどれくらいでしょうか。

松本課長 ホールが平土間にできることを市民の皆さんにどれくらい浸透しているか、明確な認知度は把握できていないのですが、ホームページやパンフレットで周知している中で、市民の皆様にはある程度平土間でも使えることを認知していただけているのではないかなと思います。

中田委員 変な質問してしまって申し訳ないです。ホールが平土間でも使えることはある程度認知していても、もしかしたらいろいろな制約があるのでは、例えば、下に敷物を敷かないといけなとか、何かしらリスクがあるのではとか考えているかもしれないと思いました。結構そういったホールはあるので。それで、使えるのかもしれないけれどちょっと面倒くさいのかもしれないよねというのがどこかにあると、もしかしたら計画の段階でちょっとやめようかということもあるのかもしれないと思います。ホールの使用についても平土間についても、使いやすさをアピールできていれば、計画の段階でためらうことも減らすことができるのではと思いました。

松本課長 また指定管理者も含めまして、使いやすさのPRにさらに力を入れていきたいです。

中田委員 新しいうちは使用率が高いですが、どうしてもだんだん下がってくるということがあると思います。最初のうちにいろいろなことを浸透させておくのももしかしたら大事なのかなと少し思いました。

渡邊委員 楽しい、行きたくなるみたいな仕掛けがあればいいですね。例えば企業とタイアップするといいかもしれないです。展示に無料で使えるみたいな。

中田委員 学生対象で、展示に無料で貸し出すとか。

山本教育長 そのほかいかがでしょうか。

十河委員 地域運動部活動推進事業について。令和3年から2年間のモデル地域としての試行期間が終わり、これから令和5年以降どのように市内の部活動について計画しているか、また現状など、もしお分かりになったら教えていただきたいです。

築谷主幹 昨日もBSSさんで報道していただきまして、成果よりも課題の方が多いいろんなことが進んでおりません。今年度からはいろんな補助事業を断ち切りまして、単市で少しわずかな保険料や消耗品代をもとに、今ある部活動の受け皿を探している状況でございます。令和5年度は、およそ11ある学校の部活動の約半数の5クラブを、土日だけ地域のクラブの方に委託をしたり、または教員が立場を変えて指導に当たったりという形でやってみてはいるものの、なかなか子どもたちの所属の場所であったり、明確な線引きは引けないまま学校の部活動とクラブチームとが連携というか、協力せざるを得ない状況でございます。そんな中で、令和6年や7年の3か年、令和8年度末までにはすべての学校の部活動が、土日は地域の受け皿に練習場所が移動していけばいいなという計画は立ててはいるのですが、なかなかその見通しがたないまま、ひょっとしたら子どもたちの部員数の状況とか配分の状況とかを考えていろんなことが変更になっていくだろうという予想はしております。財政的な措置がなかなかありませんので、鳥取県教育会の方もこの夏には方向性を示すという風に言われていましたので、そこはしっかり注視しながら、県の方向性にもある程度揃えながら、無理のない形でといいますか、少し教職員の負担と子どもたちの活動の確保のバランスを考えながらちょっとやっていけそうかなと思っています。

松本課長 地域スポーツの担当課の立場からの所見をちょっと申し上げたいと思います。ドイツの先進地で見ていると、学校は午前中で終わり、午後からは地域に無数にあるNPO等を主体と

した、いわゆるクラブチームのようなところで、子どもたちがスポーツや文化活動を、各々が一番いいなと思うところでやるのが当たり前でして、おそらく本来目指している先はそういう社会だという風に思っています。それはものすごく高い目標なので、当然この境港市が急にそこにポンといくのは難しいことなのですが、本来はそういうものを目指しているという話であって、学校の部活動を地域に移行させるということではないというのが私自身の考え方になっています。生涯学習課の視点では、このことに関してはアプローチを何か考えていかないといけないのではないかという課題意識は持っているところです。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか。昨日のBSSさんの放送は見られましたでしょうか。放送では、メリットとデメリット、功罪と課題というところで、BSSさんは撮っていましたが、さらっと流していますけれど、予算執行を先延ばしして途中で手を引かれてしまった。どうして？という状況です。そういう面では境港市は先行していると思います。課題をいろいろ探りながらではありますが、でも逆に言えば狭い地の利を生かして、やれることは今のうちに動いてみようよと。それで、後で同じにやれとか、あそこだけ勝手なことをやってとか、狭い土地だからできたのだとかいうようなことになってはいけないと考えています。子どもたちの活動の場、楽しんでやりたいということが少しでもできるような環境づくりを試行錯誤しながらやっっていこうというのが今です。松本課長が言っていたようなこともですし、いろいろなことがごちゃ混ぜになっているなど。教員の働き方改革だとか、何もかもごちゃ混ぜにして、室伏さんに任せておけば何とかかなるという感じになっていて、それでは上手くいかないぞと。

大部委員

現在自分の子どもを預けているところで、私もずっと考えたり携わったりしているのですが、そもそも中学校の部活動が、学校の教育の観点からみたいところから始まっていますよね。それを文言をどうするのかというのがひとつなのかなと思います。教育から切り離すのか、地域の社会教育に結び付けるのかというのがひとつと、土日にしなければいいのではと私は思うのですが、どうなのでしょう。学校行事の中で総体をするのなら平日に大会をすればいいですし。そもそもこの世の中が週休



3日になろうとしている今の在り方の中で、部活動を土日にするということに、働き方改革がどのように転じていくかとか、平日の中で割り振りの中でどうしていくかとか考える必要があるのではと思います。学校教育の一環とするのであれば、平日の5～6時間目は必ず部活をしなければいけないとするとか。学校教育じゃなくて文化や運動に触れることで五感を磨くとか、人間が豊かになるという方向にするのであれば、そういう働き方ややり方に変えていくべきだと思います。そもそもプラスアルファで物事をどっかに切り貼りしたって絶対に物事はうまくいかなくて、それを民間にもって行ってお金がないからやってくださいでは、結局お金の問題なのかっていうことになってしまいます。それで結局ボランティアでやったらやったでマンパワーでつぶれてしまうなど結局は長続きしないチームになるので、そういったもうちょっと根本的なことを抑えていかないと、現状を打開するというのは難しいかなという風に個人的には思います。

築谷主幹

本当に今おっしゃられた通り、部活動の扱いというのは非常に大きな問題でして、特に公立の中学校というのは、学習指導要領にのっとって教育課程が組まれます。その中で、次の改定が令和8年度末になろうかと思うのですが、そこまでは部活動の位置づけは基本的に変えられないことになっています。ですので、部活はあくまでも子どもたちの自主的な活動を教員が支援するというかたちですので、平日に部活を子どもたちがしたいという思いがあれば、教員はそこをサポートしていくということは変わらないと思います。ただ土日は先ほど言われた通り子どもたちがしたいと言えればしたい子はするし、顧問もそれを応援したいということでされる部もありますし、土日はしないよと宣言されている部もあります。現に今、5つ移行し始めた部は、原則土日は部活動としては活動しませんとなっております。保護者の方はいろんな思いをもっていらっしゃると思いますが、そこで線引きを今始めているところでございます。ですので、今後の学習指導要領の部活動のとらえようによって、本当に平日も子どもたちをクラブに、または文化活動に、外部に活動してもらおうのか、それとも学校である程度部活動という位置づけの価値を見出して、もう少し継続されるのかというのは、大きな国の指針にのっとって公立学校は動いていくの

だと思っております。ですので、なかなかこう、3年から4年の猶予期間の中で県もしっかり準備して移行していこうというような腹積もりではないかと思っておりますので、今年来年で一気に動き出すということにはならないかなと思っております。

中田委員

矛盾がありますよね。学校側から部活動を移行するというものの、クラブチーム自体を運営しなければならないでしょうし、そういったプロのクラブチームがあったとしてもその子ども対応というところは社会貢献ということになってくるじゃないですか。そういった部分に学校側から部活動を移行させるとかってすごく無理があると思っております。もともとそういった、スポーツが盛んで、チームがたくさんあってというような土壌があるところであればいいのかもしれないけれど、今の話で聞くといろんな種目によって、じゃあ皆さん何かクラブやってくださいよ、つくってくださいよと暗黙のうちに言っているような。それで教員ができませんから皆さん何とかお願いしますよ、と言っているような状態にしか見えないなと思っております。民間のクラブチームにしたって、自分たちで使用料とかを払って実際そういったものを運営しているところであって、じゃあお金を払うから子どもたちを見てよというそういったものではないのでは、ちょっと違うのではないかという風に思えてしまいます。そのあたりの在り方、今の話で学習指導要領によって令和8年までは変えられないと言いながらこういったことをやっているその矛盾っているのがとってもあるし。いろんなことを探っていくという段階になっているということなのだと思いますが。

十河委員

何がいいのか最適解を探しつつ、そこまではやっぱり国の方針も中途半端なことになっているので、民間のクラブチームをじゃあ作ろうかといってもなかなか。それこそ今大部委員が言われたように土日はしない、大会も平日にやるという風にしてしまえば、それで出場する選手を公欠にしてしまえばもうちょっと話がスムーズに進みそうな気がしますけど。

大部委員

公立であるのであれば、クラブでないのであれば、中体連や高体連でするのであれば、別に平日にすればいいと思うのですがね。

渡邊委員

大会の主催も中体連だとか、クラブチームがやるとか、いろいろあるみたいですよ。どこが主体となって大会運営をしていくかとか。

大部委員

例えば子どもが大人の大会に出るとか、どれにも出ようとするからおかしい話で。中学生は中学生の大会に出ればいいし、高校生は高校生の大会に出ればいいのではと思います。17歳くらいまでは別に育成でいいのではないかと考えていたりします。18歳以降はプロになりたい子はプロになりたい子で、求める場所に行きたい子は求める場所にみたいな。ドイツは多分そういう形で成り立っているのではないのでしょうか。まあ日本は多分なかなかそこから抜けきらないかなと考えたりしますけど。

山本教育長

教育長の会議でもそれぞれ意見が全く違います。絶対に部活動がいるという人もいれば、まったくそうではないという人もいます。今からかかっても10年後だという人もいます。やはり一つは、文化・体育・スポーツというもののとらえ方が低いことにあるのではと思います。これが全人格的人間の形成を目指す教育基本法のものからしたら、勉強だけしていればいい、座学だけしていればいいでしょという価値観ですべてを判断するから。ここは誰かが何とかしろという扱いになるのは、価値の位置づけの問題なのだと思います。だから松本課長が言ったドイツ、ヨーロッパ、フィンランドもそうなのでしょうけど、放課後のあの時間は大事な時間なのですよ。教育が無償化されているフィンランドでは、ギムナジウムに行って運動したり、冬に寒くてもプールで泳いだりしているのですが、中学生に聞くと、プールで泳ぐと体が強くなるから通っている、競争や競技ではなくて、自分の体をととても大事にするため、健康寿命を延ばすために、今その体をつくっておいているのですと言うのです。今度の試合に勝つ！とか、とにかく勝つことに重きを置くのが日本のスポーツ界で、その時だけは美しいものとされるけれど、価値自体は低いのです。私も絵なんか描いてもご飯は食えないぞと何度言われたか。だから美術の先生になれと言われて先生になりましたが。動機は不純ですけど。でもそういう価値観の低さをすごく感じますね。だからそれを根本的に変えるには、コロナ禍があって、5年10年計画でそれぞれ導入し

ていくと言っていたGIGAスクール構想のタブレットが、1年2年で急速に導入されたみたいに、改革的なものが起こることしかある意味ないのかもしれない。でもそうやってゆっくりだけど変化をしながらいい方向を探りながらやはり前進していかないと、この話はやめましようと言った途端に終わると思います。ゆっくりだけど必ず子どもたちが未来の幸せをつかんでいくための文化やスポーツの活動にならないといけないのだろうなど、ものすごく大きなくくりの言い方ですけど思います。

大部委員

山本教育長が言われた、文化やスポーツの価値や置かれている場所が低いという話に関連して。多分日本だけだと思うのですが、海外に行っても、中学3年生の6月に引退なんてありえないっていう。その大事な時期に全く8か月も何もしなくて、また高校1年生の4月、5月から始めて、約1年ですよ。何もしないで次のステージに行くというのはおそらく日本の文化だと思います。逆に、新しいチームの気が散るから、引退した人は来るなということと言われることもあります。そういう位置づけなのかなと思います。本当に目の前のことしか見ていない人たちが多いのかなというのをすごく感じています。そこを含めて上手くシフトしていければいいかなと思います。海外では引退なんてあり得ないです。生涯現役。

山本教育長

大部委員が言うように、そういうことを大きな問題だととらえて議論してもいい時代が来ていますよね。例えば、中高一貫校のコンセプトの中に境高が大事にしている文武両道があります。中高一貫校は部活動を辞める必要がないのですよ。もう1本の売りは英語教育。外遊ができる。だからあそこに行くと文武両道。体を作っていくベースも、自分に特化した学びをやることもできるところ。そこからお受験が小学校6年に降りてくるということになるのですけど。それを一律で持てたら、そういう体系的な学びのシフトが持てるようになるだろうなと思っています。一律って田舎の町にはなかなかないので。私立はあるんですけどね、北斗とか。

大部委員

一律でやるのなら、できれば3歳からやってほしいです。

山本教育長

フィンランドは、新学期が4月ではないですけど、幼稚園

の義務化を1年前倒して2年間義務化にしました。だから4歳からですよ。もうそこは義務なんだなって。だって早期教育のまた幼児期に学ぶことがあったら全然変わってくるでしょうから、ここにすごいギャップはあります。話が少しそれてしまいましたが。さっき築谷主幹が言いましたが、BSSさんの取材では、こういう先生がいます、月から金までしか僕はやりません、土日は自分のプライベートに充てられるようになっていきますとかいうインタビューも撮ってくれています。また見てやってください。

山本教育長

そのほかいかがでしょうか（質問等なし）。それでは協議事項については以上となります。つづきまして、報告事項について教育総務課よりお願いします。

#### 【4. 報告事項】

《教育総務課 生涯学習課 行事等報告》

※松原局長より各中学校区学校運営協議会、各中学校体育祭、とっとり学力学習状況調査、市民運動会、伊平屋村教育交流事業説明会、各小学校宿泊研修、中学校西部地区総体、教員採用試験、各小学校修学旅行等について説明

松本課長より市民交流センター視察、市民運動会教育長巡行、公民館においてよ、宍道・玉湯公民館視察、シークレットベース誠道、ガイナール鳥取サッカー教室、上道小学校宿題見守り活動、中浜小学校草刈お助け隊、第5回ボッチャ大会、市展作品受付等について説明

《図書館 利用状況等報告》

※資料配布

事務局

ただいまの説明について質問等ありますでしょうか。

十河委員

例年度9月に小学校中学校の市内一斉公開日というのがあったと思うのですが、今年はどんな感じでしょうか。

松原事務局長

申し訳ございません、今年度はコロナ移行期間に決定しないといけないこともあって、中止とさせていただいております。ただし小中学校につきましては各学校で参観日を少し増やしたりですとか、公開するような状況で動いております。また秋の

学校訪問の時にはご案内させていただいて、教育委員の皆様にも学校の様子を見ていただけたらと思います。

十河委員

来年度以降は市内一斉公開日というのを設けて、幼稚園、保育園も含めて日を揃えてというようなことをご検討されているのでしょうか。

松原事務局長

そこまではちょっとまだ、幼稚園、保育園との連携もありますので。

十河委員

できたら多くの方に自分の学校だけじゃないところも見ていただきたいので、一斉公開の日があった方がいいのかなという気がいたします。よろしくお願いします。

事務局

ほかに何かありますでしょうか（質問等なし）。  
次回日程確認。

#### 【5. 閉会】

山本教育長

それでは本日の定例教育委員会は閉会といたします。ありがとうございました。